



# Empathy (共感力)

校訓：進取・創造・雄飛

発行 令和8年3月19日  
那覇市立鏡原中学校  
学校だより10号

## 「卒業式」

校長 望月雄紀

本校では3月7日、「過去に感謝を 今に情熱を 未来に挑戦を」というテーマの下、第48回卒業式を挙行了しました。このテーマには2年1組の案が選ばれ、「今までに感謝し、すべてに情熱を注ぎ、何事にも挑戦してほしい」という願いが込められています。また、このテーマを基に作られたテーマ詩には、1年生の当真優花さんの作品が選ばれました。

多くの保護者の皆様に見守られる中、卒業生が入場。当真優花さん、喜納未音さん、宇座明優里さん、山本菜々海さんの4名によるテーマ詩の群読で、オープニングの幕が開けました。厳かな雰囲気の中で卒業証書授与が執り行われ、式辞では「宮大工」の話をしました。

(以下、抜粋して紹介します)

「現在、首里城の修復工事で活躍している宮大工には、口伝(くでん)の教えがあります。『塔組みは、木組み。木組みは、木の癖組み。木の癖組みは、人組み。人組みは、人の心組み。』これは、木の癖を見極め、上手く組み合わせることで建物が強固になり長持ちすると同様に、人の心も互いに組み合わせることで素晴らしい力が発揮される、という意味です。同じ種類の木でも、育った環境によって性質(硬さ・反り・ねじれ)はさまざま、これを『木の癖』と呼びます。この癖は、人間でいう『個性』です。お互いの個性を理解し、補い合うことで大きな力を生み出す。そこで大切になるのが『共感力』です。共感を持って接することで信頼が生まれ、個性が最大限に活躍の場が作られるのです」

また、PTA会長の吉元さつき様より心のこもった祝辞を、卒業生保護者代表の大田澄様よりご挨拶をいただきました。卒業生による「別れの歌」では、彼らを選んだ合唱曲『正解』の歌声が会場を大きな感動で包み込みました。



式典後、運動場での写真撮影も和やかに行われました。また、体育館での式に参加できなかった生徒へも、その日のうちに無事、証書を渡すことができました。卒業生230名全員が、同日にそれぞれの道へと巣立てたことを、校長として大変嬉しく思っております。

## 3年生を送る会



3月6日、卒業式の前日に「3年生を送る会」を開催しました。今年度から始まった初めての試みです。この会は、「在校生にも卒業式の雰囲気味わってもらいながら、卒業生をしっかりと見送る機会をつくること」を目的としています。本校の規模では、卒業式当日に在校生全員が列席するスペースを確保することが難しく在校生にも卒業生の歌声を直接聴いてほしいという思いもあり、この会を企画しました。

当日は、式典の準備が整った体育館に、フロアの卒業生と2年生、そして2階ギャラリーの1年生が集い、会が始まりました。

在校生代表のテダーディーンさん、卒業生代表の山城思温さんからそれぞれ贈る言葉が交わされた後、卒業生による合唱「正解」、続いて全校生徒による「旅立ちの日に」の大合唱が行われました。

体育館いっぱい響き渡る歌声は圧巻で、胸を打つ深い感動に包まれました。最後は在校生が花道を作り、卒業生を教室まで温かく見送りました。初めての試みでしたが、とても充実した、記憶に残る会となりました。



## 保護者の皆様へ

感謝申し上げます。

今年度の本校は「改革の年」でもありました。学年チーム担任制の導入や定期テストの廃止など、新たな取り組みを進める中で、保護者の皆様にはご心配をおかけした面もあったかと存じます。そのような中、学校評価アンケートには多くの保護者の皆様にご回答いただき、皆様の教育に対する意識の高さと、本校への深い関心を改めて実感いたしました。貴重なご意見をお寄せいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。現在、次年度に向けて、改善に向けた準備を進めております。令和8年度も、教職員一同、一丸となって教育活動に邁進してまいります。引き続き、本校の教育へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

今年度、保護者の皆様には多大なるご理解とご協力をいただき、心より